

# 千代田区を対象とした 古写真のアーカイブ化

藤田 景<sup>1</sup>・福井 恒明<sup>2</sup>

<sup>1</sup>学生会員 法政大学大学院修士課程 デザイン工学研究科 都市環境デザイン工学専攻  
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:kei.fujita.2c@stu.hosei.ac.jp)

<sup>2</sup>正会員 博士(工) 法政大学教授 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科  
(〒102-8160 東京都千代田区富士見2-17-1, E-mail:fukui@hosei.ac.jp)

千代田区は江戸時代以来の歴史・文化が最も集積した地域の一つであり、古写真をはじめとする地域史に関する資料が豊富に存在している。しかし、これらの資料は散在しており、千代田区関係者や一般市民が資料を活用して千代田区の地域史を理解することは容易ではない。地域史に関する資料を整理し、多くの人が容易にアクセスできるシステムを整備できれば、地域史を理解し、都市計画・観光・教育などの様々な領域で活用することができる。本研究では千代田区を対象として、古写真の収集・整理を行い、地域別・年代別の資料分布の特徴を把握し、これをもとに地域の特徴を考察した。また、千代田区関係者や一般市民が容易に地域史への理解を深められるよう、アーカイブシステムomekaを用いて、地図や年表表示との併用による資料の表現手法の検討を行い、整理した古写真を容易に確認できるようにした。

キーワード: 古写真, 歴史, 千代田区, アーカイブ

## 1. 序論

### (1) 研究背景と目的

千代田区は江戸時代以来の歴史・文化が最も集積した地域の一つであり、地域史に関する資料が豊富に存在している。しかし、これらの資料は散在しており、千代田区関係者や一般市民が資料を活用して千代田区の地域史を理解することは容易ではない。特に、歴史を尊重したまちづくりを行うためには、公共事業にあたる公務員や民間事業者が地域の歴史を知ることが重要である。

また、最近では区や市が地域の歴史をアーカイブとしてまとめ、一般公開しているところが多くみられる。例えば、小田原市の小田原デジタルアーカイブ<sup>1)</sup>は、小田原に関する写真や映像をデジタル化することで、歴史的史料を保存し、インターネット上で小田原の魅力を市内外に発信している。このように、デジタルアーカイブは場所、時間問わずにアクセス可能であるため、地域の歴史に触れる機会が増え、地域史の理解の促進につながると思われる。

本研究では千代田区を対象に、以下の2点を目的とする。

- ①代表的な地域史資料として古写真を収集・整理し、地域の特徴を把握すること
- ②千代田区関係者や一般市民が容易にアクセスできる古

写真のアーカイブを構築すること

### (2) 既往研究

千代田区の歴史の変遷を整理した既往研究には、神田神保町地域の書店を対象とし、書店の立地変遷や専門店街の継続的発展に関する知見を得た山崎<sup>2)</sup>の研究、秋葉原地域を対象に、産業集積の特徴と集積持続のメカニズムを把握した小野<sup>3)</sup>の研究、丸の内地域を対象に、歴史の変遷における従業者と地域への認識の変容を把握した水澤<sup>4)</sup>の研究などがある。しかし、これらの千代田区を対象とした研究は、地域の歴史の変遷を整理しているが、丸の内や神田神保町など地域や、書店など業種を絞ったものであるため、千代田区全体の変遷を把握することはできない。千代田区全体を対象とし、歴史の変遷を整理した既往研究には、千代田区の景観構造における歴史の変遷を把握した窪田<sup>5)</sup>の研究があるが、整理する際に用いた資料が少なく、千代田区全体を概観できるものの地域の詳細を確認することは困難である。

デジタルアーカイブ化に関する既往研究には、古地図に時系列情報を追加しデジタルアーカイブ化することにより都市空間の変遷を把握した村尾<sup>6)</sup>の研究、博物館の学術資料の理解に重要な資料に地理情報を追加しデジタルアーカイブ化した有田<sup>7)</sup>の研究がある。しかし、村尾は、アーカイブ化した資料が古地図のみであるため、ア

ーカイブシステム上で歴史的背景や変遷を十分に把握することができず、有田は、資料の位置情報を追加することで地理的把握ができるが、資料同士の関係や時系列を把握することができない。

本研究の先行研究として、地理情報と時系列情報の両方を追加し、アーカイブ化した研究<sup>9)</sup>があるが、アーカイブシステム上で資料を通時的に確認することが出来ず、利用する際の資料情報の表現にも、改善の余地があると考える。

そこで本研究では、千代田区に関する地域史資料の情報を年代・地域ごとに整理し、地域ごとの歴史的変遷を把握した上で、地理情報や時系列情報を追加し、アーカイブシステム上で歴史的変遷を表現する方法の検討を行う。

### (3) 研究方法

本研究では、千代田区の特徴を把握するため、千代田区に関する古写真の出典情報やその内容に関する情報を整理する。さらに資料を年代・地域ごとに整理し、地域ごとの歴史的変遷や特徴を把握する。次に資料のアーカイブ化を行う。アーカイブ化の際には、写真撮影の場所・年代などの情報を付加し閲覧性を高める。地図上に表示し地理的情報を追加したものなどがある。本研究では、アーカイブシステムOmeka<sup>9)</sup>を用い、整理した資料を地図上に表示し、年表表示を併用することで地理的情報、時系列情報を追加し、通時的に資料を確認できるアーカイブシステムの構築を行う。

### (4) 対象地

本研究は千代田区全域を対象とする(図-1)。

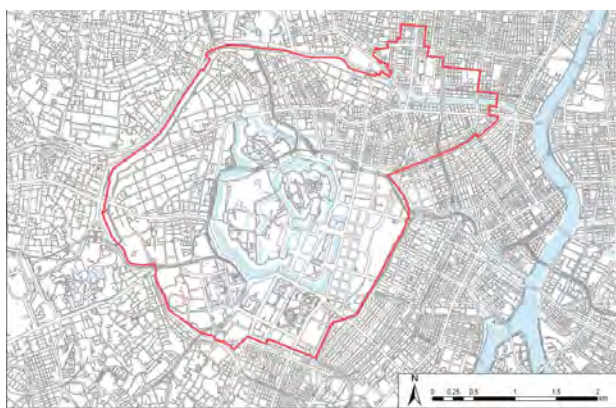


図-1 本研究の対象範囲

## 2. 古写真の収集と情報整理

### (1) 地域史資料の収集

地域史資料は、その地域の歴史を理解する上で重要である。整理された地域史資料に多くの人が容易にアクセスできる環境を整えば、歴史を尊重したまちづくりや観光・教育等に活用できると考える。こうした資料は、文献、古地図、古写真、など様々なものが挙げられるが、一般市民や千代田区関係者が容易に千代田区地域史への理解を深めるため、過去の情報を視覚的に把握できる古写真(写真1)に注目した。

千代田区古写真を収集するにあたり、元千代田区役所職員で長くまちづくり関連行政に携わってきた小藤田正夫氏にヒアリングを行い、65冊の書籍と2件のデジタルアーカイブのリストについて提供を受けた(表-1)。

小藤田氏より提供を受けた資料から千代田区を対象とした古写真1134枚を抽出した。



写真-1 千代田区を対象とした古写真例  
(東京駅 1945年)

### (2) 資料の情報整理

各写真資料の出典情報、資料内容に関する情報を表-2に示した項目で整理し、データベース化を行った。所在・年代が特定できないものについては情報の補完を行った。所在は江戸・昭和・現代の重ね地図ソフトの参照<sup>10)</sup>、地域史資料提供者である小藤田氏からの情報提供により特定した。年代は書籍の出版年、内容から特定した。項目整理の例として、通信博物館を例に示す(図-2、表-3)。情報補完を行った結果、所在については1134件のすべてについて位置を確認した。年代については、出典資料に記載があった582件、情報補完を行った392件、合計974件を確認した。年代と所在の両方が確認できた資料は974件である。

表-1 小藤田氏から提供された資料一覧(書籍およびデジタルアーカイブ)

資料名	著者名	出版社名	出版年	写真数
関東大震災号	—	国際情報社	1923年	20
関東大震災書報	—	敬文社	1923年	8
東京震災録	東京市役所	東京市役所	1927年	39
大東京写真帖	斎藤嘉夫	忠誠堂	1930年	14
帝都復興記念帖	復興局	復興局	1930年	55
日本地理風俗大系 大東京編	—	誠文堂新光社	1936年	72
東京大空襲 未公開写真は語る	NHKスペシャル取材班 山辺昌彦	株式会社新潮社	1946年	10
東京1945年・秋	文化社	文化社	1946年	8
東京都戦災史	東京都	東京都	1953年	2
東京そのむかし	宮尾しげお	アソカ書房	1955年	18
東京百年史	大久保利謙	東京都	1979年	4
日本城郭写真集大成	西ヶ谷恭弘	株式会社第二アートセンター	1981年	50
百年前の日本	相賀徹夫	株式会社小学館	1983年	4
将軍が撮った明治	徳川慶朝	朝日新聞出版	1986年	6
写真と地図と記録で見る 写真集・関東大震災誌	—	株式会社千秋社	1987年	14
実写実録 関東大震災	加藤勝久	株式会社講談社	1988年	6
写真で見る幕末・明治	小沢健志	世界文化社	1990年	9
米軍が記録した日本空襲	平塚征緒	株式会社草思社	1995年	3
戦後50年姉妹編 カラー新発見 アメリカ人の見た日本 50年前	西井一夫	毎日新聞社	1995年	5
幕末・明治の写真	小沢健志	株式会社筑摩書房	1997年	3
東京国立博物館所蔵1	東京国立博物館	株式会社国書刊行会	1999年	3
古写真に探る幕末徳川の城	—	松戸市戸定歴史館	1999年	15
明治の日本一宮内庁書陵部所蔵写真	宮部敏夫・中村一紀	吉川弘文館	2000年	9
東京国立博物館所蔵2	東京国立博物館	株式会社国書刊行会	2000年	4
古写真で見る江戸から東京	小林公成	株式会社世界文化社	2001年	60
写真で見る関東大震災	小沢健志	株式会社筑摩書房	2003年	34
地図と写真で見る幕末明治の江戸城	平井聖	株式会社学習研究社	2003年	6
カラーでよみがえる にっぽん60年前	サンデー毎日編集部	毎日新聞社	2005年	2
フランス士官が見た近代日本のあけぼの	榎本敏雄	株式会社アイアールデー企画	2005年	12
東京いつか見た街角	持田晃	河出書房新社	2005年	22
東京都江戸東京博物館資料目録ガラス原板1	東京都江戸東京博物館	東京都 財団法人東京都歴史文化財団	2006年	16
古鎮下の東京	佐藤洋一	河出書房新社	2006年	25
40年前の東京 昭和38年から昭和41年	春日昌昭・佐藤嘉尚	株式会社生活情報センター	2006年	11
東京1950年代	山口昭男	岩波書店	2007年	7
GHQカメラマンが撮った戦後ニッポン	杉田米行	アーカイブス出版 株式会社	2007年	22
続・GHQカメラマンが撮った戦後ニッポン	杉田米行	アーカイブス出版 株式会社	2007年	2
米国立公文書館所蔵写真集 敗戦国日本の記録 下巻	半藤一利	アーカイブス出版 株式会社	2007年	3
米国立公文書館所蔵写真集 敗戦国日本の記録 上巻	半藤一利	アーカイブス出版 株式会社	2007年	12
開封された秘蔵写真 GHQの見たニッポン	太平洋戦争研究会	株式会社世界文化社	2007年	9
追憶の街 東京 昭和22年~37年	一花義広	アーカイブス出版 株式会社	2007年	16
写真集近代皇族の記録—山階宮家三代—	学習院大学史料館	吉川弘文館	2008年	1
城と城下町1	大沢弘彰	学習研究社	2008年	7
1960年代の東京 路面電車が走る 水の都の記憶	池田信	毎日新聞社	2008年	45
古絵巻書でみる日本の城	後藤仁吉	株式会社東京堂出版	2009年	7
写真集関東大震災	北原糸子	吉川弘文館	2010年	69
名所旧跡・街頭風景の今昔 ニッポン時空写真館1930-2010	二村正幸	株式会社誠文堂新光社	2011年	12
レンズが撮らえた 幕末明治日本紀行	小沢健志	株式会社山川出版社	2011年	26
帝都東京を歩く地図	船谷典利	株式会社学研パブリッシング	2011年	20
平成24年度文化財企画展 東京—その復興の歴史—	千代田区日比谷図書文化館 文化財事務所	千代田区教育委員会	2012年	42
決定版東京空襲写真集 アメリカ軍の無差別爆撃による被害記録	東京大空襲・戦災資料センター	株式会社船誠出版	2012年	34
レンズが撮らえたF・ベアトの幕末	小沢健志 高橋則英	株式会社山川出版社	2012年	15
レンズが撮らえた150年前の東京	小沢健志	株式会社山川出版社	2013年	17
古写真と古地図で体感する!失われた江戸城	金子堅太郎	洋泉社	2013年	4
レンズが撮らえた幕末日本の城	小沢健志・三浦正幸	株式会社山川出版社	2013年	56
レンズが撮らえた 幕末明治 日本の風景	小沢健志	株式会社山川出版社	2014年	4
レンズが撮らえた 外国人カメラマンが見た幕末日本	小沢健志	株式会社山川出版社	2014年	10
レンズが撮らえた 日本人カメラマンが見た幕末明治	小沢健志	株式会社山川出版社	2015年	7
昭和館戦後70年写真展 写真集	昭和館 図書情報部	昭和館	2015年	10
米軍が見た東京1945秋	佐藤洋一	株式会社洋泉社	2015年	21
明治初期日本の原風景と謎の少年写真家	宮田奈奈	株式会社洋泉社	2016年	1
東京戦後地図 ヤミ市路を歩く	藤木TDC	株式会社実業之日本社	2016年	9
東京復興写真集1945-46	山辺昌彦, 井上裕子	船誠出版株式会社	2016年	39
文化社がみた焼け跡からの復興	—	—	—	—
戦災等による焼失文化財2017	文化庁	戎光祥出版株式会社	2017年	10
一昭和・平成の文化財過去帳	—	—	—	—
レンズが撮らえた オックスフォード大学所蔵 幕末明治の日本	小沢健志	株式会社山川出版社	2017年	3
高精細画像で見る 150年前の幕末・明治初期日本	—	—	—	—
高橋細画像で見る 150年前の幕末・明治初期日本	東京大学資料編纂所 古写真研究プロジェクト	株式会社洋泉社	2018年	17
土木学会付属土木図書館	—	—	—	4
デジタルアーカイブ	—	—	—	—
京の記憶アーカイブ 武部正「関東大震災」アルバム	—	—	—	4

(3)資料からみる千代田区の特徴

千代田区の特徴を把握するため、情報整理により所在と年代の両方が特定できた写真に関して、所在を地域別、年代別に整理した(表-4)。地域ごとに社会背景との関係性を考慮し、写真から読み取れる特徴を整理した。

1920年代から1930年代の写真には、1923年の関東大震災により焼失した街の様子や、復興事業で整備された道など新しい街の様子が見られた。全ての地域で同様の傾向が見られ、関東大震災が千代田区全体に与えた影響の大きさを示している。1960年代には、水辺を対象とした写真が他の時期に比べて多く見られる。高度経済成長期の高速道路建設により、水辺の風景変化への懸念からこうした写真が多く残されたと考えられる。水辺を対象とした写真の分布に着目すると、大手町、富士見、神田地域において、1870年代~1960年代に継続的に存在し、水辺と周辺環境が一体となった写真が多く見られる。1870年代頃までは、親しみのある自然な水辺空間として注目され、その後、震災や空襲の復興など都市の発展により変わっていく街の様子と、大きく変化しない水辺を対照させ、より街の変化を示すものとして、こうした写真が多く残されたと考えられる。

表-2 古写真の情報整理項目

項目	内容	
出典情報	書籍名, 著者名, 出版社名, 出版年, 掲載ページ	
写真題目	資料に掲載されている写真のタイトル	
所在	撮影対象の現在の住所表示の町名	
対象物分類	建物	ニコライ堂・九段会館などの建物
	橋	鍛冶橋・万世橋などの橋
	川	日本橋川・神田川などの川
	濠	牛ヶ淵などの濠
	駅	御茶ノ水駅・東京駅などの駅
	道	行幸通り・九段坂などの道
	鉄道	路面電車・高架鉄道
神社	神田明神・靖国神社などの神社	
工作物	銅像など	
年代	撮影された年代	
説明文	資料に関する説明文	



図-2 古写真例(通信博物館)<sup>10)</sup>

表-3 項目整理例(通信博物館)

項目	内容
出典情報	1960年代の東京 路面電車が走る水の都の記憶池田信、毎日新聞社、2008年、p.201
写真題目	通信博物館
所在	富士見2丁目
対象物分類	建物
年代	1965年
説明文	1902年に日本の万国郵便連合への加盟25周年を記念して設立された博物館。交通と通信に関する各種資料と世界各国の郵便切手やハガキ8万種類を収蔵していた。道路右側は飯田橋から市ヶ谷方面へ続く外濠公園の石垣。

表-4 地域別・年代別資料分布

年代	地域	有楽町	大手町	丸の内	永田町	富士見	番町	神田	皇居	合計
1860年		0	0	0	0	0	1	0	1	2
1870年		0	4	3	9	4	5	8	143	176
1880年		0	10	11	21	9	1	12	9	73
1890年		0	1	0	3	2	0	3	1	10
1900年		0	0	1	1	4	0	4	5	15
1910年		0	0	3	4	1	0	0	0	8
1920年		15	16	48	21	39	8	83	26	256
1930年		5	0	23	19	9	4	30	1	91
1940年		45	2	32	38	17	10	35	17	196
1950年		15	1	20	7	6	0	11	2	62
1960年		13	3	12	9	19	2	38	3	99
1970年		0	0	0	0	5	0	1	0	6
1980年		2	0	0	0	0	0	0	0	2
1990年		0	0	0	0	0	0	1	1	2
2000年		1	0	2	0	0	0	8	0	11
不明		2	2	8	31	28	3	19	65	158
合計		98	39	163	163	143	34	253	274	1167

### 3. アーカイブシステムの構築

#### (1) 目的

前章では千代田区に関する古写真のデータベース化を行った。このデータベースのままでも収集・整理した古写真の公開が可能であるが、地域史を理解し、歴史を尊重したまちづくりや、観光、教育などの様々な観点で活用するため、古写真から歴史の変遷を把握する機能が不十分である。そこで、多くの人のアクセスが可能であり、地図上に表示など閲覧性の向上や表現手法の検討が可能なアーカイブシステムを新たに構築する。

#### (2) 使用するシステムの選定

インターネット上での公開を前提としたアーカイブシステムやその実現が可能なデータベースアプリケーションについては、有償・無償を含めていくつかのものがあ。本研究では、オープンソースのコンテンツ管理システムである「Omeka (オメカ)」を採用する。Omekaの開発元はGeorge Mason UniversityのRoy Rosenzweig Center for History and New Mediaである。Omekaには3つのグレードがあるが、そのうち、無料で使用でき、地図上に資料を表示し時系列情報を可視化するプラグイン

Neatline<sup>1)</sup>が利用可能な「Omeka Classic」を用いてシステムを構築する。

#### (3) ベース地図としての古地図の導入

地図上に表示した資料から当時の状況を理解しやすくするためには、できるだけ古写真の撮影年代の状況に近い地図上に表示する必要がある。千代田区内では明治維新、明治期の市区改正事業、関東大震災後の帝都復興事業、第二次世界大戦後の復興事業等で土地利用や街路網が大きく変化している。そこで、時代を5期に分けてそれぞれベース地図となる古地図を選定、導入した(表-5)。

表-5 ベース地図に用いる古地図

時期	使用地図
明治初期	1/5000「東京図測量原図」明治16年 参謀本部陸軍部測量部
1917~1924	1/25000「東京西部」大正8年測図 大日本帝國陸地測量部 1/25000「東京首都部」大正8年測図 大日本帝國陸地測量部
1927~1939	1/25000「東京西部」昭和6年測図 大日本帝國陸地測量部 1/25000「東京首都部」昭和7年測図 大日本帝國陸地測量部
1944~1954	1/25000「東京西部」昭和20年測図 地理調査所 1/25000「東京首都部」昭和22年測図 地理調査所
1965~1968	1/25000「東京西部」昭和41年測図 国土地理院 1/25000「東京首都部」昭和40年測図 国土地理院

#### (4) 地図上での表現方法

古写真の空間的分布の把握を容易にするため、地図上での表現の検討を行った。まず最初に写真の情報として、撮影地点と撮影対象がある。さらに地図上に表現する情報として、「撮影地点」と「撮影対象範囲」がある。地図上に表現する際工夫が必要なのは、「撮影対象範囲」である。写真の撮影対象範囲の表現を行うことで、写真に写された街並みや周辺環境など、写真の主題として取られたもの以外の対象物を地図上で確認することができる。これについて、①撮影地点の位置と視方向を示す方法、②撮影地点の位置と撮影対象範囲を示す方法、の比較を行った(図-3、図-4、図-5)。

地図上に表現した、①撮影地点の位置と視方向を示す方法、②撮影地点の位置と撮影対象範囲を示す方法、のメリット・デメリットを整理する。

①では、メリットとして、周辺の建物の配置や資料の説明文から視方向を把握でき、情報の正確性が高いとい

う点がある。またデメリットとして、撮影対象範囲が広域の場合、範囲を正確に把握することが困難であるという点がある。

②では、メリットとして、撮影対象範囲が広域の場合、主題として写っている情報以外にも正確に把握することができるという点がある。またデメリットとして、写真数の多さから、地図上で撮影対象範囲が交差してしまう可能性が高く、その場合交差した下の資料を選択することが困難であること、撮影対象範囲を正確に特定することが困難であり、情報の正確性が低いこと、撮影地点の位置と撮影対象範囲を別で作成する必要があり、作業時間がかかるという点がある。

以上のことから本研究では、地図上に表現する際の情報の正確性と見やすさ、作業効率を考慮し、①撮影地点の位置と視方向を示す方法を選定する。



図-3 古写真例(銀行会館)<sup>12)</sup>



図-4 図-3の撮影地点の位置と視方向を示す表現



図-5 図-3の撮影対象範囲を示す表現

### (5) 検索補助情報の付加

資料の一覧性の向上と、時代ごとの状況や変遷をより理解しやすくするため、プラグインソフトの導入により以下の3種類の検索補助情報を付加する。

#### ① タイムライン

時代ごとの資料分布状況を把握しやすくするために、プラグインNeatline Widget ~ SIMILE Timeline<sup>13)</sup>を導入す

る。地図画面下の年表部分を左右に移動させることで、年ごとの資料の存在が確認できる(図-6)。



図-6 丸の内 1920年代 タイムライン表示画面例

#### ② 資料リスト

資料の一覧性を高めるために、プラグインNeatline Widget ~ Waypoints<sup>14)</sup>を導入する。地図画面右側に資料のタイトルがリストとして示される。このリストはタイムラインと連動しており、年代を選択するとその年代のリストが表示される(図-7)。



図-7 丸の内 1920年代 リスト表示画面例

#### ③ 年表

時代背景を理解しやすくするために、プラグインNeatline Widget ~ Text<sup>15)</sup>を導入する。地図画面右側に千代田区に関する年表が表示され、地図上に表示されている資料の位置づけを理解することが可能になる(図-8)。

千代田区に関する年表は、千代田区史<sup>16)</sup>、新編千代田区史<sup>17)</sup>、千代田区の歴史<sup>18)</sup>から、都市計画事業、公共事業、災害を中心に別途作成した。



図-8 丸の内 1920年代 年表表示画面例



図-9 キーワード検索画面

#### 4. システムの使用イメージ

本研究で構築したアーカイブシステムを用いて資料を検索する方法として、①具体的な対象名を検索する方法、②年代、対象物、地域名の分類ごとに検索する方法、③地域の地図から資料の存在を把握して参照する方法がある。

##### ①具体的な対象名によるキーワード検索

具体的な対象名を検索する方法として、キーワード検索が挙げられる。キーワード検索は、検索をかけた単語を含む資料がすべて表示され、資料ごとの情報を詳細に得ることができる(図-9、図-10)。

##### ②年代、対象物、地域名の分類ごとに検索する方法

年代、対象物、地域名から分類ごとに検索する方法として、タグ検索がある。タグ機能を利用することにより、利用者がアーカイブ化された写真を利用する際、写真ごとの分類や関係性を見やすくなる。写真にその内容の特性を示すタグを割り当てることによって、検索が容易になる。

表-2に示した項目から、撮影年・地名・対象物のタグを割り当てた。その結果、年代、対象物、地域名が割り当てられている資料を分類ごとに検索することができ、それぞれの情報を一覧で見ることができる。具体的な対象を決めずに検索する場合や、地域ごと、川や橋などの対象物分類によって資料を検索する場合に有効である(図-11、図-12)。

##### ③地域の地図から資料の存在を把握して参照する方法

本研究で構築したデジタルアーカイブでは、地図から資料の存在を把握して参照することが可能である。検索したい場所付近の地図を表示し、タイムライン機能で時期を選択することによって、その時期・場所に関する資料が表示される(図-13)。



図-10 キーワード検索結果画面例(「東京駅」で検索)



図-11 タグ検索画面



図-12 タグ検索結果画面例(「1940年」で検索)



図-13 地図検索画面例

## 5. システムの活用

本研究で構築したアーカイブシステムの活用方法を考える。

日本の社会インフラの老朽化は急速に進んでおり、多くの橋、道路の補修工事が行われている。千代田区でも後楽橋やお茶の水橋といった道路橋の補修補強工事が行われており、お茶の水橋の補修補強工事の際には、アスファルト舗装の下に埋め込まれていた都電の舗石が現れた。これにより「お茶の水橋都電レール保存会」<sup>19)</sup>が発足し、貴重な遺構の保存・活用に向けて活動が行われている。このように、工事の際に遺構が発見されることがあり、事前に過去の状況を確認し、歴史的価値を尊重した工事の検討を行うことが重要である。

今回は千代田区の万世橋で工事が行われると仮定し、本研究で構築したアーカイブシステムの活用方法を示す。地図で万世橋周辺を拡大し、タイムライン表示を1930年代に合わせ、リスト表示の中から「万世橋」を選択すると、1930年の万世橋の様子を確認することができる(図-14、図-15)。他にも1936年(図-16)や1960年(図-17)、2010年(図-18)の万世橋を対象とした資料が存在する。アーカイブシステム上のタイムラインをずらしていくことで、万世橋に路面電車が走っていた様子や周辺環境の変化を時系列で確認することができる。このように、本アーカイブシステムを用いることで、万世橋の修復工事が行われる際に、その担当者が地域の歴史を容易に把握することができ、歴史を尊重したまちづくりに活用できる。

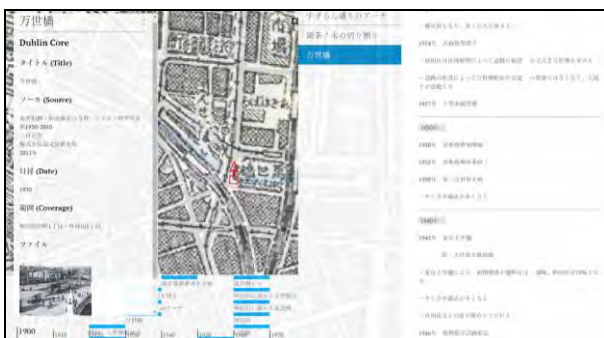


図-14 1930年「万世橋」の画面表示例



図-15 1930年「万世橋」<sup>20)</sup>



図-16 1936年 「万世橋」<sup>21)</sup>



図-17 1963年「神田川に架かる万世橋の北詰」<sup>22)</sup>



図-18 2010年「万世橋」<sup>23)</sup>

## 6. まとめ

### (1) 結論

本研究の結論は以下の3点である。

- ①明治から昭和にかけての千代田区に関する1134枚の古写真を抽出し、その出典、所在や年代といった情報を整理し、データベース化した。
- ②データベース化した情報をもとに、千代田区を7つの地域に区分し、地域別・年代別古写真分布の特徴を把握した。
- ③アーカイブシステムであるomekaを用いて地域史資料をアーカイブ化した。古写真を地図上に表示し、地図の重ね合わせや、時代背景との参照を可能にするなど、整理した地域史資料の時間分布や主題の把握を容易にした。

### (2) 今後の課題

本研究で取り扱ったのは、千代田区に関する古写真1134枚である。アーカイブシステムの実用化に向けてさらなる資料の追加を行い、千代田区に関する情報の拡充をしていく必要がある。

また、omekaによるアーカイブ化の際の検索機能と地図機能の連携の改善を行い、閲覧性の向上の検討を行う。

最後に、アーカイブシステムの実用化に向けて、資料の著作権を処理した上で、アーカイブを一般公開する必要がある。

本研究は令和元年度千代田学事業の助成を受けて実施したものである。

### 補注

- (1) 所在の特定には、以下の地図ソフトを利用した。  
株式会社エーピーカンパニー：江戸明治東京重ね地図  
<http://www.app-beya.com/work/layermap/edomeijitokyo> [最終閲覧日2020年8月29日]

### 参考文献

- 1) 小田原市：小田原デジタルアーカイブ  
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/encycl/> [最終閲覧日2020年8月20日]
- 2) 山崎賢悟：「本の街」神田神保町にみる成熟した専門店街の変容，日本都市計画学会都市計画論文集，No. 42-3，2007
- 3) 小野由理：秋葉原地域における産業集積の特徴と集積持続のメカニズムに関する研究，日本都市計画学会都市計画論文集，No. 39.3，pp. 757-762，2004
- 4) 水澤良子：東京丸の内の歴史的変遷過程における従業者と地域への認識の変容，The Nonprofit Review，Vol. 10，No. 1，pp. 49-66，2010
- 5) 窪田隆一：皇居周辺地区における景観構造の変遷に関する研究，土木史研究，No. 11，pp. 143-153，1991
- 6) 村尾修：Google Earthを用いた江戸・東京の都市復興デジタルアーカイブ，日本建築学会技術報告書，Vol. 13，No. 26，pp. 811-814，2007
- 7) 有田寛之：科学系博物館における資料の周辺情報のデジタル・ア

- ーカイブ化に関する実践的研究，教育情報研究，Vol. 26，No. 2，pp. 27-34，2010
- 8) 法政大学エコ地域デザインセンター：九段・神保町地区の地域史資料アーカイブ化とその表現に関する研究・調査，平成30年度千代田学事業研究成果報告書，pp. 6-19，2019
- 9) Omeka：Omeka ホームページ<https://omeka.org/> [最終閲覧日2019年12月19日]
- 10) 池田信：1960年代の東京 路面電車が走る水の都の記憶，毎日新聞社，p. 201，2008
- 11) Neatline：Scholars' Lab <https://omeka.org/classic/plugins/Neatline/> [最終閲覧日2020年8月21日]
- 12) 前掲10)，p. 213
- 13) Neatline Widget ~ SIMILE Timeline：Scholars' Lab  
<https://omeka.org/classic/plugins/NeatlineSimile/> [最終閲覧日2020年8月21日]
- 14) Neatline Widget ~ Waypoints：Scholars' Lab  
<https://omeka.org/classic/plugins/NeatlineWaypoints/> [最終閲覧日2020年8月21日]
- 15) Neatline Widget ~ Text：Scholars' Lab  
<https://omeka.org/classic/plugins/NeatlineText/> [最終閲覧日2020年8月21日]
- 16) 千代田区：千代田区史 上・中・下，千代田区，1960
- 17) 千代田区：新編千代田区史 年表・索引編，千代田区，1998
- 18) 鈴木理生：千代田区の歴史，株式会社名著出版，1978
- 19) お茶の水橋都電レール保存会  
<https://ochatoden.home.blog/> [最終閲覧日2020年8月26日]
- 20) 二村正幸：名所旧跡・街頭風景の今昔 ニッポン時空写真館1930-2010，株式会社誠文堂新光社，2011
- 21) 誠文堂新光社：日本地理風俗大系 大東京編，誠文堂新光社，p. 331，1939
- 22) 前掲10)，p. 197
- 23) 前掲20)，p. 55